



めがね橋がめがねらしく撮れたので

所長コメント

まるで旧日本海軍の戦艦が波しぶきをあげて進んでいるようである。

長崎市沖合にある端島、通称軍艦島である。1月中旬、某農協の監事会の旅行に長崎に行った時のスナップです。

南北に480m、東西に160m、面積63,000㎡(マツダスタジアムの敷地面積50,000㎡)の小島に、最盛期には5,300人が住んでいた。小中学校、病院、派出所、お寺、映画館、パチンコ店なども

あった。日本の高度成長を支え、1974年に閉山し、無人島になった。そして45年経った。戦艦大和が太平洋戦争の末期、航空機全盛の時代に無用の長物とかし、沖縄に特攻作戦に出た。

そして、東シナ海に3,000名の将兵とともに沈没し、今は呉で観光名所として蘇っている。

波に揺れる小さな観覧船から、軍艦島を見るとなんとなくそんな思いがダブってきた。

社長の仕事 税理士 大場史郎

利益を出そう

「上場企業今期最高益に」 日経新聞の見出しにこのような安倍首相が喜びそうなタイトルが踊っている。「円安寄与、稼ぐ力も向上」とある。

トヨタ自動車は2兆9200億円の経常利益予想とある。法人税の税率が現在30%（我々中小企業は800万円までの所得は18%、800万円超は30%）とすると、約9,000億円の法人税を国に払うことになる。国の税収約55兆円、そのうち所得税、消費税が15兆円ずつ、法人税が概ね12兆円、3税で3/4を占める。トヨタは日本の法人税の8%を占める。下請け企業も入れると10%は超えるのではないだろうか。

素晴らしいのは25兆円の売上で、経常利益（最終利益）が1割以上残せることである。我々レベルで言えば、売上1億円で1,000万円の経常利益である。ここを見習いたいものだ。

トヨタと言えば、在庫を持たない「かんぱん方式」、生産現場での3S（整理・整頓・清掃）の徹底など、多くが講演会や本によって紹介されている。

稼いでも、稼いでも、乾いたタオルを絞るようにけちけち精神は持ち続け、それによって生まれた潤沢なキャッシュを燃料電池車のような次世代に勝ち残る新技術開発につぎ込む。

当事務所の関与先でも、トヨタのように無借金で每期継続的に高利益を上げている関与先もあります。

その時の流れにのり、一時的に利益が出るのは、フロックかもしれないが、10年続けて利益を出し続けるというのは、本当の実力だと思う。

それらの社長さんに共通するのは、真剣に事業に向き合い、そして意外にいい意味で質素です、言い方を替えればケチです。トヨタは日本一のケチな会社かもしれませんね。